



戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

芦屋ユネスコ協会 70 年のあゆみ

《エピソード I》

芦屋ユネスコ協会（協力会）の誕生

芦屋ユネスコ協会は昭和 22 年（1947 年）に発足し、爾来 70 年間に亘り、ユネスコの精神に基づいた活動を続けてきました。

今回は、わが協会が誕生したころのことを、一緒に振り返りたいと思います。

日本の終戦の年にあたる昭和 20 年（1945 年）11 月、心の中に平和の砦を築いて、戦争という人間が作り出す悲劇を再び繰り返さない世の中を作るために、国際連合教育科学文化機関、つまりユネスコ（United Nations Educational Scientific and Cultural Organization）の頭文字「UNESCO」が創設され、日本はパリに本部を持つこの機関に昭和 26 年に加盟しました。

さて、昭和 20 年（1945 年）、国連にユネスコが創設された当時、第二次世界大戦中には敵国外国人の制約を受けながらも 8 年間滞米していた湯浅八郎先生（帰国後の同志社総長）は、昭和 21 年（1946 年）10 月、第 1 回日本人送還船の中で日本にユネスコの必要性を感じて、同年 11 月に帰国後、直ちに資料を携えて芦屋市楠町の三田谷治療学園長であった三田谷啓氏を訪ねユネスコ協力会について相談、そして両氏は廣瀬勝代氏（現芦屋ユネスコ協会名誉会長の母・写真左）にその創設を要請したのです。

その要請を聞いた勝代氏の夫・豊一氏は、氏の中学時代からの親友であった森戸辰男氏（文部大臣・後に日本ユネスコ協会連盟顧問）に話したところ、直ちに森戸先生が駐日ユネスコ代表の李照謀博士と共に廣瀬家を訪れ、重ねてユネスコ協力会設立への協力を勝代氏に要請されました。

しかしそのころ、廣瀬勝代氏は兵庫県連合婦人会長として、食糧事情・復員軍人・戦争裁判・原爆遺児への救済など戦後問題に忙殺されていたため、ユネスコ協力会設立にその力を注ぐことができませんでした。そこで、

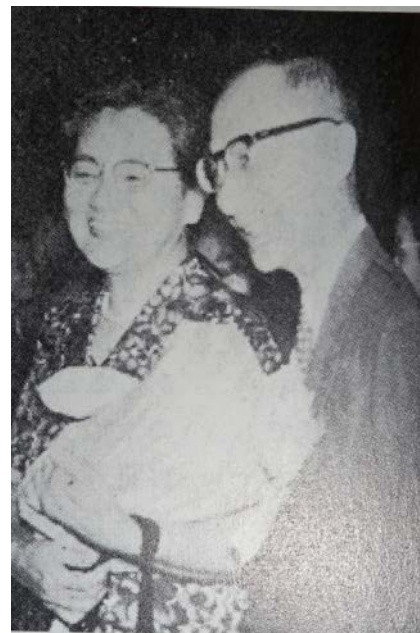


勝代氏は仙台に在住の従姉妹・氏家愛子氏に事情を話したところ、その趣旨に賛同した氏家愛子氏が日本で最初のユネスコ協力会を仙台の地に発足させることとなったのです。

一方、芦屋市でも市会議員の川越氏に依頼して市内在住の有識者を集め、ユネスコ協力会を結成しました。

芦屋最初の会長は丹羽俊彦氏、副会長に仁田勇氏、理事長に川越清氏、事務局長に古林秀雄氏、そして学生クラブが20名で発足、全国初の成人セミナーなど活発な活動を展開しました。しかし昭和25年(1950年)ころになると、学生クラブの学生が卒業・就職などの内部事情や茂木事務局長のご逝去など、発足3年後には活動の継続が困難になり、学生クラブのOB達による要請により広瀬勝代婦人会会長が芦屋ユネスコ協会の会長となり、伊藤秀三氏(伊藤病院の初代院長)が副会長に、芦屋市の村上邦雄氏を事務局長として再びユネスコ活動の活性化に取り組んだのです。

ユネスコにわが国が加盟した昭和26年(1951年)、連盟も各地のユネスコ協力会も以後“ユネスコ協会”に名称を変更することになりました。また、この年、政府機関として日本ユネスコ国内委員会が設置されました。



湯浅夫妻

コラム

「民間ユネスコ運動60年史」2007年6月2日発行(日ユ協連)より抜粋



思い出

湯浅 八郎

◆… 1946、7年代の日本の精神界にとって、ユネスコは新しい世界の光明と希望とを意味したかの感がありました。それだからこそ各地でその地域の心ある指導者たちが、進んでこの運動に参加し支援されたのであったと思います。

ついでに付記いたしますが、私たちが京都でユネスコ活動を展開し始めますと、当時のアメリカ軍政部から呼び出しがあり、日本はまだ軍政下にあるから日本人が勝手にユネスコのような国際的機構に関する運動を推進することは許されぬ、しばらく差し控えよとのことでした。なんだか、当時京都に来ていた米国官憲筋では、ユネスコの本質が理解されていなかったためではなかったかと勘ぐれば勘ぐれたようでした。

そのようなわけで、最初私たちはあえてユネスコ協会とは称えず、ユネスコに協力しようとする善意の組織であるという意味で、ユネスコ協力会という表現を選んだのでありました。

これも歴史的な当時の雰囲気をお語るエピソードの一つでしょう。

(前国際キリスト教大学総長・京都ユネスコ協会顧問。

「ユネスコ民間活動20年史」日ユ協連1966年刊)

舞鶴一世界記憶遺産を訪ねる旅



好天に恵まれた4月13日(木)、今年の世界遺産・地域遺産見学バスツアーは、日本海に面した港町舞鶴へ、平成27年(2015年)にユネスコ世界記憶遺産に登録された「舞鶴引揚記念館」を訪ねました。

昭和47年(1972年)に双葉百合子さんがリバイバル曲として歌った「岸壁の母」を舞鶴若狭自動車道のバス内で聞きながら、私たち一行は舞鶴に到着しました。

私たちを出迎えてくれたのは、舞鶴ユネスコ協会の役員のみなさんと、満開の桜・桜並木でした。

舞鶴港は、昭和20年(1945年)第二次世界大戦の終結に伴い、当時海外にいた660万人の日本人を速やかに日本に帰国(引揚)させるため、政府が引揚港の一つとして指定した港であり、昭和20年10月7日の第一船の入港から昭和33年(1958年)9月7日の最終船までの13年間の長きにわたり、引揚港としての使命を果たしてきました。特に、昭和25年(1950年)以降は唯一の引揚港として、多くの引揚者が祖国への第一歩を踏みしめ、人生の再スタートを切ることになった港でした。

「舞鶴引揚記念館」は、昭和63年(1988年)に日本全国からの寄付金を受けた舞鶴市が設立した建物で、日本本土への苦難に満ちた引き揚げと筆舌に尽くしがたい旧ソ連領内での抑留生活の歴史を後世に伝え、平和の尊さを世界に発信しています。

戦後70年を迎えた平成27年(2015年)、その収蔵資料の内570点が特に希少性が高く、世界的にも重要性が認められ、ユネスコの世界記憶遺産に登録されました。



東舞鶴にある記念館では、エントランスホールにある大きな地図を前に、大陸からの引揚の詳細を館長から直々に説明を受けました。この舞鶴港には、軍人の復員も66万人を超えたといわれています。

そして、平湾に復元された「引揚桟橋」(写真・下)を見学。

昼食時には、舞鶴ユネスコ協会会長・副会長・事務局長、引揚記念館館長らと歓談・会食させていただき、引き揚げが縁となりロシアのナホトカや中国大連と姉妹都市提携、友好都市交流があるとのこともお聞きしました。

午後には、一般のかたの引き揚げ拠点となった西舞鶴の港(現在ヨットハーバーになっている)も特別に見学、また海拔325mにある展望台「五老スカイタワー」にも上り、近畿百景第一位という絶景のリアス式海岸舞鶴湾を堪能しました。

帰路は新設の京都縦貫道路を通り、名神経由で芦屋へ全員無事に帰還しました。

～母は来ました 今日も来た この岸壁に今日も来た とどかぬ願いと知りながらもしやもしやに もしやもしやにひかせて～という歌詞が、満開の桜以上に脳裏に残り、平和の尊さを思い知らされる一日でした。

＜文責：中川 明 理事／写真：南 ゆう子 事務局次長＞





出前授業 ～市内学校に広げるユネスコ活動～ 《甲南学園中等部・芦屋市立潮見小学校・芦屋市立朝日ヶ丘小学校・芦屋市立精道小学校》

芦屋ユネスコ協会では、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の理念に基づき、平和への取り組みの1つとして『世界寺子屋運動』を実施しています。

世界にはいろいろな理由があって学校に通えず、字の読み書きや計算のできない人たちがたくさんいます。このような人たちに勉強する場所「寺子屋」を作って、教育を受けるチャンスを支援する運動です。寺子屋で生活に必要な生活に必要なことを学び、その知識を使って安定した仕事に就き、貧しい生活から抜け出すために「世界寺子屋運動」は必要です。このために、皆様のご家庭の机や引き出しの中にある、書き損じたはがきや未使用切手・未使用テレホンカードを集めて寺子屋運動の資金にしています。

そうした身近な活動を紹介し、子どものころからユネスコ活動への理解や参加を呼び掛けるため、平成28年度も市内学校園に通う児童・生徒を対象とした「出前授業」を実施しましたので、報告させていただきます。

◆甲南学園中等部・全校生徒対象

2月8日(水)5時限目・午後2時から15分間、甲南学園講堂を会場に、中等部550人の生徒さんに出前授業を実施しました。甲南学園の日ごろのユネスコ精神あふれるボランティア活動や募金運動に対し、塩井副会長からお礼を述べ、その後「ユネスコとは」の出前授業を行いました。さすがに中学生、打てば響く反応に、書き損ジローくんも大ノリの活躍でした。

◆芦屋市立潮見小学校・全校児童対象

3月1日(水)潮見小学校体育館、午前8時30分からの朝礼の場で長谷川校長先生より10分間の時間をいただき「ユネスコ出前授業」を実施しました。全校児童の整列を前にして、1年生から6年生の体格・態度の差に、話し方や内容の難しさを再認識しました。

◆芦屋市立朝日ヶ丘小学校・6年生対象

3月3日(金)午前10時30分から、朝日ヶ丘小学校視聴覚教室を会場にの6年生77人を対象に実施。DVD「寺子屋運動20年の歩み」を観賞。その後、6年生の代表より芦屋ユネスコ協会へ、「役立ててください」と「書き損じはがき」の贈呈式を行っていただき、塩井副会長からは感謝状を贈りました。後藤校長先生は「朝日ヶ丘小学校は、児童会はありません。1～6年生を縦割りに14グループあり、グループで活動。書き損じはがきも、6年生がチラシを作ってメンバーのクラスを回り、声かけをして集めてくれました」と話されていました。

◆芦屋市立潮見小学校・全校児童対象

3月14日(火)精道小学校校庭で、午前8時30分からの朝礼の8分間を谷川校長先生にいただき、ユネスコの出前授業を行いました。さいわいこの日は温暖な朝でしたが、児童たちが動くたびに砂塵の舞う小学校のグラウンドが印象的でした



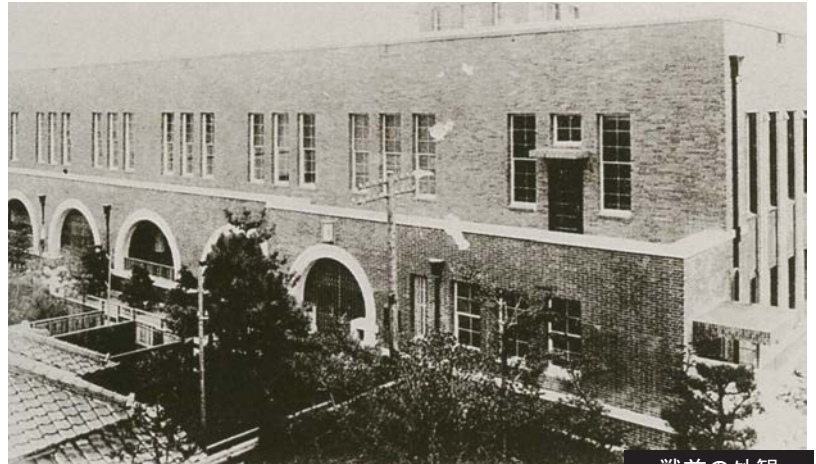
次代へつなごう「芦屋の未来遺産」 ～芦屋文化の100年リレー⑩～

■旧芦屋郵便局電話事務室が「国登録有形文化財」に登録決定

今回「国登録有形文化財」に登録決定された芦屋市大槻町にある結婚式場「芦屋モノリス」の建物は、昭和4年(1929年)に、逓信省一芦屋郵便局電話事務室(電話交換局)として建てられました。

昭和2年当時、芦屋はまだ精道村として発展を続けており、村内の電話加入者数もすでに1,047件に増加していました。

このため、電話交換業務も自動式に切り替えることとなり、昭和4年に電話事務室が大槻町に新設されたのでした。



戦前の外観



北東面の外壁

「広報あしや」4月15日号には今回の登録決定の記事が大きく掲載されていますが、記事によると建設当初は建物の外壁は茶系統のスクラッチタイル貼りで、1階は濃い茶色、2階は薄茶色の2色のタイルが貼り分けられていたようです。また所々に獅子頭とレリーフによる装飾が施されており、建物正面には連続アーチがこの建物の特徴付けているようです。設計者は、明治30年(1897年)大阪市生まれの上浪 朗氏。上浪氏は、東京大学建築学科を卒業後、逓信省に入省し、同省の先輩2人

とともに、この建物の設計を行いました。

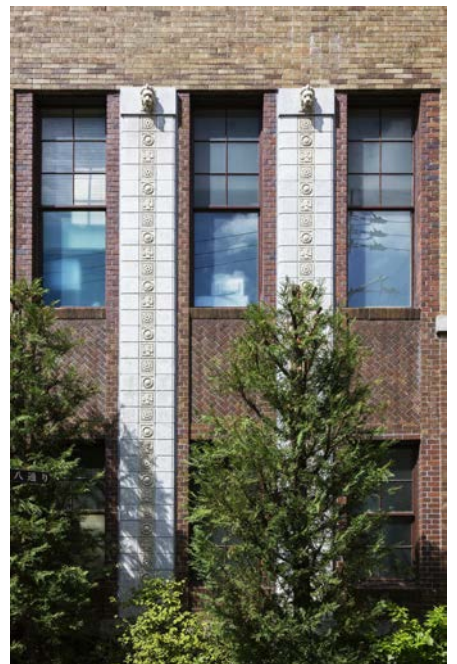
第二次世界大戦時には外壁が防空迷彩のためにコールタール塗装され、また戦後には吹付塗装によって当初のタイルが覆われていたこともありましたが、昭和61年(1986年)に保存改修工事が行われ、建設当時の外観を取り戻すことができました。

その後しばらくはNTTのお客様窓口として使用されていましたが、平成16年(2004年)に用途変更を行い、現在の「芦屋モノリス」が建設当初の特徴を活かしつつ結婚式場として活用されています。

＜文責：南 ゆう子 事務局次長／写真：芦屋市広報国際課提供＞



内部・1階 廊下



外壁のレリーフ飾り

芦屋ユネスコ協会 創立 70 周年記念 2017 年度 総 会 へのご案内

芦屋ユネスコ協会が誕生して 70 周年を迎える今年度の総会を、下記のとおり開催します。総会後の懇親会も、今年度は皆さんとともにお祝いするメモリアルな催しを企画しています。

会員の皆さまには 5 月上旬(予定)に別途往復はがきで詳細をお知らせいたしますが、奮ってご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

■日 時 6 月 16 日(金)《総会》午後 5 時 30 分～6 時 《懇親会》午後 6 時～8 時 30 分

■会 場 《総会》芦屋市民センター 301 室 《懇親会》芦屋市民センター・多目的ホール

2017 年度 年会費 納入のお願い

芦屋ユネスコ協会は、皆さんの年会費によって運営しています。また、「つなげよう 平和の心」を活動方針として、共に生きる世界を目指し、学び・行動するための多くの活動を実践しています。年会費は、役員にお託けいただくか、下記口座へお振り込みいただく方法があります。

【芦屋ユネスコ協会の銀行口座】

◆銀 行 名 三井住友銀行 芦屋駅前支店

◆口座番号 普通預金 3901693

◆口座名義 芦屋ユネスコ協会 会長 山田 利郎

※上記ご案内の「総会」会場受付でも、
会費の納入を承りますので、会計担当
まで当日お申し出ください。

◎日本ユネスコ協会連盟提唱の「東日本大震災の支援募金」に、ご協力をお願いします。

◎「世界寺子屋運動」のための「書き損じはがき」などのご提供を、引き続きお願いします。

新入会員 紹介

ご入会、心より歓迎いたします。

★赤司 伸子 様

編集後記

舞鶴へのバス旅行は、晴天と桜満開に恵まれ、近年にない大人数でとても満足してまいりました。親から戦争の話を聞いた事はありません。でも、肝心な所は正直聞き逃していたかもしれません。「引揚記念館」を見学して、これまで私が聞き知っていた
つものの「戦争」は余りにも観念的であったことを思い、少し考えてしまいました。

想像もつかない抑留生活について、少しでも理解できたかもしれません。

今年は、芦屋ユネスコ協会も創立 70 周年を迎えます。総会も記念行事を少しでも考えています。多数のご参加をお待ちしております。 <本荘 美恵 常任理事>